

アクセス

飛行機利用
AIRPLANE
東京(羽田)→ANA→庄内空港【約1時間】

JR利用
TRAIN
東京→上越新幹線・羽越本線【約4時間】
東京→山形新幹線・陸羽西線【約4時間】

自動車利用
CAR
酒田中央ICから酒田港まで約10分
仙台→東北自動車道・山形自動車道【約2時間20分】
東京→東北自動車道・山形自動車道【約6時間20分】
東京→関越自動車道【約5時間50分】

高速バス
BUS
東京→酒田【約9時間】
仙台→酒田【約3時間】



酒田港から飛島へ

定期船「とびしま」は、総トン数253トン、定員230名、総アルミニウム合金製で、酒田港から飛島までの約39Kmを20.5ノット、1時間15分で結んでいます。船内はバリアフリーで全席自由席です。2階の展望デッキでは、爽やかな風と日本海から眺める酒田や鳥海山の絶景が満喫できます。

お問い合わせ

【観光全般】酒田市観光振興課 TEL.0234-26-5759 FAX.0234-22-3910
【観光・宿泊】(一社)酒田観光物産協会 TEL.0234-24-2233 FAX.0234-24-8350
【観光ガイド】酒田市観光ガイド協会(酒田駅構内) TEL.0234-24-2454 FAX.0234-24-2454

ホームページ

【酒田市】<http://www.city.sakata.lg.jp/>
【(一社)酒田観光物産協会】<http://sakata-kankou.com/>

定期船乗船お申し込み・お問い合わせ

【酒田市定期航路事業所】
酒田市船場町2-5-6 TEL.0234-22-3911 FAX.0234-22-3912



H28.3発行



飛島の見どころ

飛島は、酒田港より北西に約39kmの距離にあり、山形県の最北かつ最西に位置します。周囲を暖流(対馬海流)が流れており、年平均気温は12度以上と暖かく、積雪もそれほどありません。この海流によりもたらされる温暖な気候により、北と南の動植物が混在しています。

飛島は、海底から隆起した陸地が波によって削られ、ほぼ扁平な海食台地が形成されたものと考えられており、その台地は、タブノキやヒサカキなどの常緑広葉樹を始め、ムベ、ヤブミヨウガ等暖地系植物とオオイトドリ、オオバノミミナグサ等の寒地系植物が混生しています。また、海岸近くでは、オニユリや、固有種であるトビシマカンゾウなどユリ科の花が、初夏に黄色やオレンジの群落をつくります。

海では、スルメイカやトビウオなどの暖流に乗った魚のほか、タラやメバル、大型のタイ類やワラサなど豊かな恵みをもたらします。

飛島は渡り鳥の中継地で、春と秋にはたくさんの野鳥が羽を休めて行きます。普段は観察しづらい種類の島を比較的簡単に観察することができ、本来は日本で見る事ができない大陸の野鳥、いわゆる珍鳥・迷鳥もたびたび観察されています。

島内には、縄文時代前期からの遺跡が存在し、江戸時代には大阪から北海道を行き来する北前船の潮待ち港、避難港として重要な位置を占めていました。また、昭和38年には、鳥海国定公園の一部に指定され、平成26年からは、ジオパーク認定に向けた活動が始まっています。

地質・地形(日本ジオパークネットワーク加盟申請中)

飛島は日本海を南北に連なる海底山脈の頂上にあたります。海底火山から吹き出した噴出物が海底に積み重なり、盛り上がりながら波や風雨に削られて現在の姿となりました。飛島のいたるところで大地と海の営みによってできた地形や風景をみる事ができます。

飛島は南と北の動植物が同居する特徴的な生態系、海を生業とする人々によって培われた漁村の生活や文化も見どころです。「大地・自然・文化」の多様性を意識しながら飛島を散策してみたいかがでしょう。きっと新しい発見に出会えるはずですよ。

歴史

島内には、約6千年から4千年前の縄文遺跡が3つあります。北陸から北東北にかけて出土する種類の土器が発掘されており、古くから海を介した交流があったことがうかがえます。

平安時代には、陸奥の安倍氏、出羽の清原氏等の勢力下におかれ、戦国時代には、仁賀保氏、武藤氏、最上氏、酒井氏と変遷し、郡島(としま)、渡島(としま)、分之島(わかれのしま)、鶴路島(つるじま)、潮島(うすおじま)、豊島(とよしま)、とど島などと呼ばれ、江戸時代に入って現在の飛島という名称になりました。

日本海に浮かぶ
不思議アイランド

飛島

山形県酒田市

Geopark

History

鳥海山・飛島ジオパーク



fishing

飛島は絶好の釣り場です。

飛島の釣り



beach

飛島の海岸には魅力がいっぱい。

飛島の海岸



birds

飛島は、渡り鳥の休憩地です。

飛島の野鳥



wildflowers

飛島は、植物の交差点です。

飛島の野草



view

飛島の景観にほっとひと息。

飛島の景観



foods

飛島の豊かな海の幸をどうぞ。

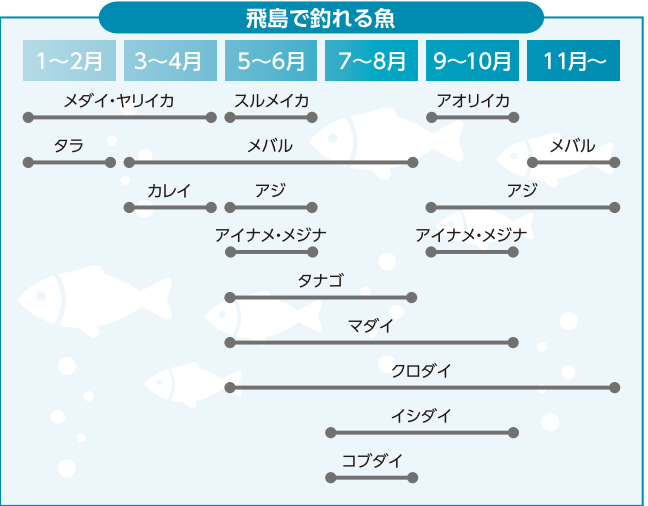
飛島の食べ物

飛島には、全国から多くの太公望が訪れます。島内の防波堤や浅い岩場では良型のアイナメ、ウミタナゴ、アジなどが釣れ、烏帽子群島などへの島渡しや船釣りでは、大型のマダイ、クロダイ、コブダイ、イシダイ、メジナなどが釣れます。

館岩近くの「海づり公園」では、海中観察室から海底の様子や餌に群がる魚を観察することができ、釣り桟橋では、初心者でも安心して釣りを楽しむことができます。



01「烏帽子群島」 02「船渡し」
03「海づり公園」大人から子供まで手軽に安全に海づりが楽しめます。釣れるのは、ホッケ・メバル・ソイなどです。釣竿の持ち込みは自由ですが、無料貸し出し竿も準備されています。(エサの有料販売あり。)

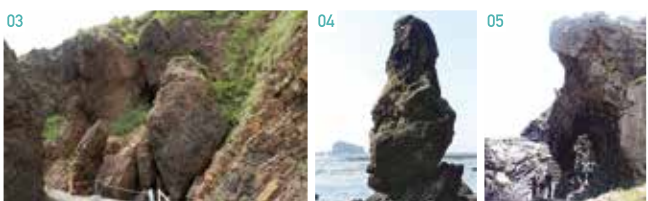


小松浜海水浴場は、自然の入り江で波も穏やか。透明な海ときれいな砂浜は、幼児から大人まで安心して遊べる人気のスポットです。海岸線ではローソク岩や貝殻でできた浜(シェルビーチ)、遠浅の海蝕台など、離島ならではの景観を楽しむことができます。

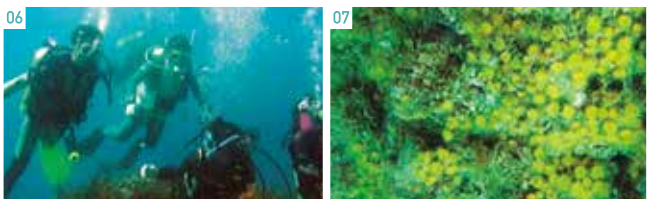
島の周辺は対馬海流の影響で、東北の海とは思えないほど温暖で透明度が高く、貴重なサンゴ類群棲地があり亜熱帯性の魚も生息しています。また、初夏にかけて産卵のために訪れるドチザメを観察することができます。



島の漁船には、遊覧船として運航する船があります。御積島を巡る40分コース、飛島を一周する1時間半コースがあり、御積島や烏帽子群島の島を間近に見ることができ、海から見る飛島の景観は格別です。遊覧船は、旅館、民宿で紹介してくれます。
01「小松浜海水浴場」 02「遊覧船」



飛島の海岸はほとんどが岩場で、海岸遊歩道からは、マンモス岩やローソク岩などの風景を楽しむことができます。また、陸地の近くには、浅い海蝕台と海岸低地面が広がり、海に洗われた斜面には、古代からの珍しい地層が見られる場所もあり、ジオパークらしい貴重な景観が広がります。 03「海岸遊歩道」 04「ローソク岩」 05「マンモス岩」



06「スキューバダイビング」島内の遊覧船を利用し、御積島周辺で楽しむことができます。(周辺は、サザエやアワビの漁場となっているため、配慮が必要です。) 07「サンゴ」勝浦港南東部に突き出る館岩周辺は、暖地系の海産生物が豊かで、日本海側に生息する「ムツサンゴ」が大群落を形成し、東北では珍しい「オノミチキサンゴ」が見られます。

飛島は、渡り鳥の中継地(休憩地)としても有名で、春と秋の渡りの時期には、たくさんの種類が観察され、約300種の鳥が記録されています。普段は梢や藪などにいて見えづらいオオルリやウグイス、アオジなどが比較的簡単に観察できることと、日本では本来見ることができない大陸系(主にロシアや中国、時には中央アジアやヨーロッパ、アラスカなど)のいわゆる珍鳥・迷鳥が観察できることが大きな魅力です。春と秋は、双眼鏡や図鑑を手に自然の再発見に出かけてみませんか？



オオルリ(4月下旬～5月上旬) ヤツガシラ(3月下旬～5月上旬) ムギマキ(4月下旬～5月中旬、10月)



キビタキ(4月下旬～5月上旬) シラガホオジロ(10月上旬) ヤマヒバリ(10月下旬～11月中旬)



コホオアカ(4月下旬～5月中旬、9月下旬～11月上旬) カラスバト(3月下旬～11月中旬) ハヤブサ(通年)



飛島はウミネコの繁殖地として、国の天然記念物に指定されています。4月から繁殖に入り、百合島、御積島と烏帽子群島、寺島で集団で営巣します。名前の由来でもあるネコのような「ミャーオ、ミャーオ」とにぎやかな鳴き声が島内に響き渡ります。幼鳥が7月には巣立ち、8月にはウミネコたちは飛島を離れていきます。

飛島は、平均気温が12℃と高く、暖地系植物と寒地系植物が混生し、植物の北限とされる「タブノキ」「ムベ」「ヤブミョウガ」「ハイバクシン」などが生育しています。

飛島には、固有種とされる「トビシマカンゾウ」をはじめ、初夏には、スカシユリやオニユリが群落をつくり、海岸線と沖に浮かぶ群島の景観を借景に美しい景色をつくりだします。また、荒崎頸部(けいぶ)の植物群落は、日本の渚百選に選定されています。



キクザキイチゲ(3～5月) オオミスミソウ(3～4月) クルマユリ(7～8月上旬)



オオバナノミニナグサ(5～6月) カワラナデシコ(7月～10月) トビシマナシ(9月)



ヤブミョウガ(8～9月) ムベ タブノキ



トビシマカンゾウは、ユリ科ワスレグサ属に分類され、飛島と新潟県の佐渡島のみに分布しています。高山植物のニッコウキスゲが海浜環境に適応したものと言われ、少し大型の鮮やかな黄色い花をつけます。飛島では、海岸近くや断崖など日当たりのよい場所に群生し、古くから貴重な食料としても親しまれ、酒田市の花に指定されています。
01トビシマカンゾウ 02荒崎頸部の植物群落

飛島は、海岸線の特異な景観や日本海、鳥海山を展望することができ、荒崎海岸は日本の渚百選に、鼻戸崎展望台はやまがた景観物語おすすめビューポイントに選ばれています。

荒崎、八幡崎展望台、鼻戸崎展望台には東屋やベンチが整備され、海岸線や、御積島や烏帽子群島、西海岸、寺島など周辺の島々を展望することができます。夕日は御積島の方向に沈み、朝日は鳥海山の方向から昇ります。何れも水平線が茜色に染まり太陽が輝く美しい姿を見ることができます。



賽の河原の石積み 南灯台と御積島に沈む夕日



マリンプラザから勝浦、中村地区 朝焼けの鳥海山



鼻戸崎から見る寺島と鳥海山 夏の荒崎



渚の鐘 オニユリ

旅館・民宿では、

旅館・民宿では、イカ、メバル、トビウオ、サザエ、アワビなどの豪華な旬の海の幸をご堪能ください。



食堂では、

食堂では、トビウオだしをたっぷり使ったラーメンや飛島の特産物やご当地ものを使ったカレーやお茶漬けなどが楽しめます。お土産は、自家製のイカの一晩干し、塩辛、サザエの塩辛、トビウオの加工品が人気です。



旅館・民宿			
A 民宿／波止場荘 ◆	Tel.96-3178	I 旅館／おらが海の家 ★◆◆	Tel.96-3123
B 民宿／美島屋	Tel.96-3110	J 旅館／中央旅館	Tel.95-2036
C 民宿／日本海 ★◆◆	Tel.95-2206	K 民宿／あづま荘 ★◆◆	Tel.95-2102
D 旅館／なごし旅館	Tel.95-2004	L 旅館／沢口旅館 ★◆◆	Tel.95-2246
E 旅館／港旅館	Tel.96-3103	M 民宿／勝浦荘 ★◆◆	Tel.96-3151
F 旅館／旅館おぼこ ◆◆◆	Tel.96-3036	※市外局番は0234です ★は磯遊びがある宿です ◆は遊覧船がある宿です ◆は船釣りがある宿です ◆は鮓に定食(魚介)を出す宿です ※宿泊については各宿泊施設にお問合せください	
G 民宿／みのり荘 ★◆◆	Tel.95-2153		
H 民宿／大福	Tel.96-3132		

飲食・土産販売・島内案内	
① 島の駅とびしま (島内案内・ガイド・土産・軽食) Tel.96-3800	④ カフェスペースしまかへ (軽食・アイス) Tel.96-3800
② 西村食堂 (ラーメン・無料貸出自転車) Tel.95-2133	⑤ 村井商店 (海産物・土産品) Tel.95-2155
③ 本間食堂 (ラーメン) Tel.95-2102	※市外局番は0234です